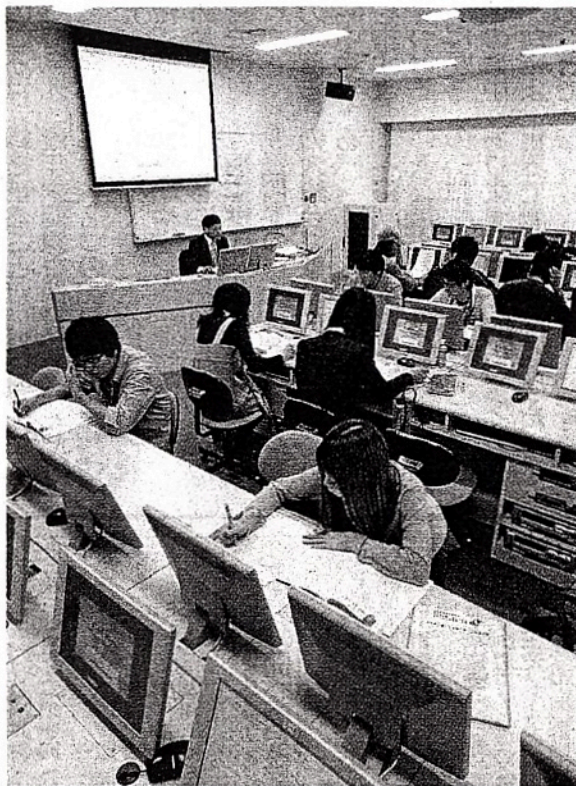


目指せ「使える外国語」習得



マルチメディア教室で中国語を学ぶ学生たち
—神戸市東灘区の甲南大岡本キャンパス

「常に改革」、言文センター15周年 甲南大

外国語教育に力を入れる甲南大学の国際言語文化センター（神戸市東灘区）が今年、設立15周年を迎え

た。「使える外国語」を徹底するため、充実した教育環境を整えて高い評価を得ており、国際連合職員など世界の舞台に羽ばたく卒業生も少なくない。12月には記念フォーラムを開く。

「外国語学部がない大学で、これだけの設備はありません」。言文センター所長の胡金定教授（中国語）は自負する。岡本キャンパス2号館は11のマルチメディア教室、学生1人ひとりの席にパソコンを設けたCALL教室、いつでも外国語ソフトを利用できる自習室などを備えた。甲南語学の殿堂。留学生がチューター（指導員）役となって交流する時間もあり、フランクな会話が弾む。

言文センターは1994（平成6）年に設立。読解偏重主義から本来に「使える外国語」へ転換するため、英、仏、独、中、韓の5カ国語を学べる。同キャンパス6学部1年生全員が英語を第1、その他を第2外国語として学んだ後、意欲に応じて2年生から中級、そして上級へと選択し

て学べるカリキュラムで、1学年約2100人のうち、2割前後が上級まで履修するという。1クラス15（上級）—30人（基礎）程度の小人数教育を実現し、教員のほか、非常勤講師は170人を擁する。英語を除く各言語では年1回、2泊3日の語学合宿を行い、仏語漬け、中国語漬け…を体験できる。

ある雑誌の大学ランキング調査では、外国語教育の満足度について関西地区唯一のベスト10入りを果たするなど高い評価を受けている。卒業生からは、国連開発計画（UNDP）や国際協力機構（JICA）職員に採用されたり、海外駐在員として活躍する、国際人が次々に誕生している。15周年記念フォーラムは12月12日午後、岡本キャンパスで開かれ、「大学における外国語教育の現在と未来」をテーマに考察。胡所長は「世界の最前線に立てる人材を育てるため、常に改革の精神で臨んでいる」と胸を張っている。